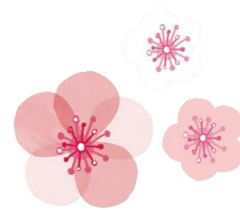


かがやき



VOL.14(2020.3)

“自分らしく輝いて生きたい”そんな願いをかなえ、誰もがお互いに認め合いながら、いきいきと暮らすことができる社会をめざします。

特集

男女共同参画の視点からの防災

「今」大規模災害が長浜市で起きたら？と考えたことがありますか？その時、私は、家族は、地域のあの人…？災害はいつ起こるか分かりません。そのために今できることを考えてみませんか？今回は、「男女共同参画の視点からの防災」について山岡伸次さんにお話を伺いました。

長浜市社会福祉協議会職員／滋賀県地域防災アドバイザー

やまおかしんじ

山岡伸次さん

地域福祉の推進に取り組みながら、自主防災組織での研修会、防災訓練でアドバイザーとして活躍。



防災・減災のために「今できること」は何ですか？

「今」災害が起こったとして、誰に「たすけて」と言いますか？何人に言えますか？その答えの範囲が狭くなってきていると感じます。そんな今だからこそ、地域のつながり、普段の付き合いからこの範囲を少しずつ広げることが防災・減災の強度を高めるうえで重要だと思います。



▲サロン活動の様子

地域のつながりをつくるとは？

たとえば自治会のサロン活動はお互いの日頃の様子を知る大きな助けとなります。「この家には小さな子どもがいるのか」「この人は歩くときに支えが必要なんだ」など分かり、災害時に誰にどんな配慮が必要か判断できます。普段顔を合わせるあの人なら「たすけて」と言える、避難所でも「こんなことで困ってる」と相談できる、ということにつながると思います。東日本大震災でも地域の『つながり』によって助け合いがすぐに始まった姿がみられました。日ごろからの付き合いを大切にすることが重要だと思います。

災害になぜ男女共同参画の視点が必要なのですか？

避難所運営ゲーム（HUG）を知っていますか？カードを引いて対応についてメンバーと考えていくゲームです。カードの内容は「妊娠6か月の妊婦で子どもも2人、どこにスペースを取ったらよいですか？」「タバコは吸えますか？」「認知症の高齢者です。誰か付き添ってもらえますか？」など。性別も年齢も立場も様々な視点があってこそ的確な対応・判断ができると実感できるものです。災害時には男の人だけの視点、女の人だけの視点ではなく、多様な視点が必要です。



▲ゲームで学ぶ防災



▲マップ作りの様子

多様な視点を取り入れた防災・減災とは？

災害が発生した時、支援を必要とする人や配慮が必要な人、その支援者、逃げるための道具、経路などを地域の地図に記入する「小地域防災・福祉マップ」作成の支援をしています。そのとき役員だけでなく必ず性別、年齢など様々な立場の人の参加をお願いしています。

ある自治会でのマップ作りでのことです。消火栓の位置、班の境界線、防災倉庫の場所などの質問をすると、「ここに何々がある」と男性が次々とマップに書き込み、続いて要支援者、配慮者の質問をすると「あの人は歩きにくくなったと言っていた」「あそこは赤ちゃんが生まれたばかりだよ」など、今度は女性がマップに書き込み、過去の地域の災害について質問すると高齢者の方が答えられました。それぞれが持っている情報、得意分野を活かす、みんなに役割がある防災・減災の取組が重要だと思います。

「もしも」のために「いつも」を見つめなおしてみませんか？

防災・減災の取組に男女共同参画の視点も取り入れてみましょう！

インタビューに同行！

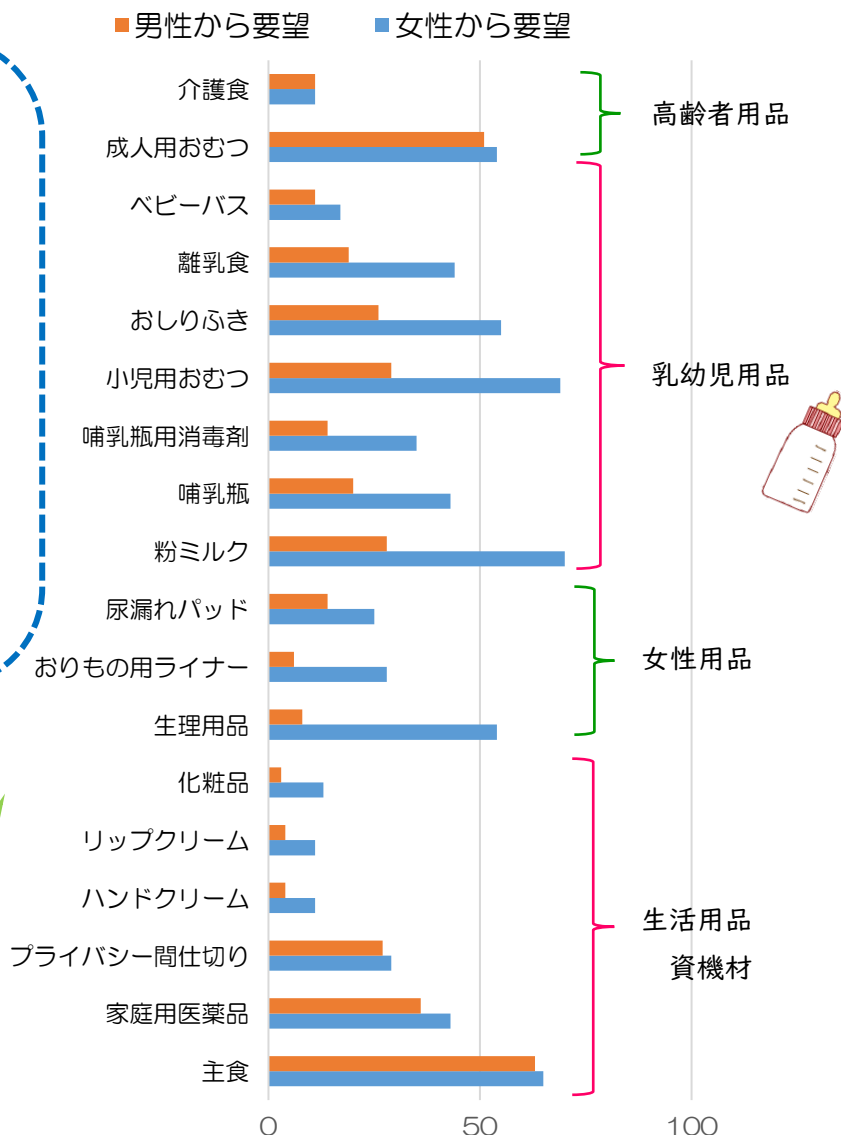
滋賀県立大学 京樂研究室
正原さん、中さん、八崎さんの取材レポ

「公共に関することは私たちみんなのことなのに、誰かのせいにしがち」という話に強く共感しました。もしもの時に助け合える社会が根付いていくためにはどうしたらいいのかを考える良い機会になりました。特に、災害に備え「全世代、そして男性・女性が『情報の役割分担』をして地域のつながりをつくり、防災・減災に取り組む」という考え方は新鮮で、ジェンダー研究をする私たちの印象に残りました。また、災害の現場で暴行や盗難といった事件が起きているという問題には驚きました。すぐそばに迫っているかもしれない災害について、新しい考えや事実を聞く貴重な経験をいただき、感謝します。

男女別でも支援物資に対する要望度は違います。

性別や年齢、病気やしょうがいの有無など地域住民の多様なニーズに対応できるよう、防災、減災には様々な立場にある人々の参画が不可欠です！

東日本大震災時の避難所での 備蓄や支援物資に対する要望(男女別・複数回答)



※平成24年度男女共同参画白書より
(調査対象は、被災3県【岩手県・宮城県・福島県】)

～自治会における男女共同参画～

少子高齢化が進む中で、自治会活動の担い手不足が叫ばれています。男性のみでなく女性の参画がこれからの自治会活動におけるキーワードの1つ。今回は、令和元年度（平成31年度）より2年連続神戸町自治会長をされている下郷靖子さん、会計の小笠原房子さんにその経験をお伺いしました！

神戸町自治会は現在22世帯で、自治会役員は約4割が女性です。自治会役員を男性だけに任せては数が足りないということで、できる人ができることをするという雰囲気があります。私もできることから、ということで、人権学習推進員、副会長を務めました。そして今回、前自治会長の後押しがあり、会長を務めることとなりました。

自治会長になり、日ごろ感じていた身近な問題を地域の問題として解決しよう！とさまざまな取り組みを行いました。例えば、ゴミ集積所ではネットを使っていたのですが、清潔で、楽にゴミ捨てできるように集積かごに替えました。そして、滋賀県警察本部の「地域安全カメラ貸付設置支援事業制度」を利用し、いつも危険と感じていた場所に防犯カメラの設置をしました。「あったらいいな」を形でき、普段の気付きを自治会活動に活かせたのかなと感じます。前会長への相談、他の役員や地域の方々の助けを得ながら、性別を問わずみんなで自治会活動をしています。



しもごうやすこ

下郷靖子さん

おがさわらふさこ

小笠原房子さん

自治会長は男性がするもの。そんな思い込みがありませんか？

自治会における男女共同参画について考えてみましょう！

インタビューに同行！

滋賀県立大学 京楽研究室 松岡さんの取材レポート

住民同士の交流や暮らしの中で気づく細かな問題を、次々と改善しようと行動される姿がとてもパワフルでした。下郷さんだけでなく、住民同士の日々のつながりが、「皆で自治を行う」という地域の活力につながっていました。女性の自治会参加を進め、皆にとってより住みよい長浜市になると良いなと思いました。



～市政における男女共同参画～

長浜市の政策・方針を決定する審議会・委員会における女性の割合は、30.8%（令和元年12月現在）

市では、女性のアイデアや視点を市政に活かすため、政策・方針を決定する委員会や審議会などの委員候補者として長浜女性人材バンク「かがやきネット」を設置しています。令和元年12月現在、15名の登録者が審議会・委員会で活躍されています！

誰もがいきいきと活躍できるまちづくりの実現のために、
あなたの力が必要です。ぜひご登録ください！



下水道事業審議会に出席されている登録者



▲下水道事業審議会の様子（「かがやきネット」より2名参画）

長浜女性人材バンク「かがやきネット」

◇登録できるのは？

長浜市内在住又は在勤の20歳以上の女性

◇何をするの？

市の政策・方針を決定する委員会や審議会などの委員の候補者となります

◇登録するには？

人権施策推進課までお問合せください

令和元年（平成31年）度事業報告



パパチャレンジ講座・ カジイクジRAKU-RAKU講座

男性も女性も育児にかかわる喜びを再発見したり、子どもと一緒に家事を楽しむコツを発見したりする講座を5回開催しました。男女共同参画クイズにもチャレンジし、「性別にかかわらず、一人ひとりが活躍できる社会」について考えました。令和2年度も楽しい講座を予定しています。ぜひご参加ください！



クッキング教室



カメラワーク



マジック教室

女性の活躍応援プロジェクト ～長浜市重点プロジェクト～



自分の「好きなこと」「特技」を活かして、起業したい！仕事をしたい！ボランティアなど活動をしたい！そんな女性を応援するセミナー、個別相談を開催しました。令和2年度も開催予定。みなさまのご参加お待ちしております！

主催 長浜市パートナーシップ推進協議会

家庭で、職場で、地域で、さまざまな場面で性別にかかわらず、それぞれの個性、能力が発揮できる男女共同参画社会の実現、女性活躍の推進のため活動しています！

【会場・問い合わせ】
子育て応援カフェLOCO
TEL：0749-53-4480
LINE@：@346hnxis



Check



▲子育て応援カフェLOCO
ホームページ

女性の悩み相談

～ひとりで悩まず相談してください！～

子育て・パートナーとの関係・家族のこと・セクハラ・対人関係など専門の相談員（臨床心理士）がお話を伺います。ご夫婦・カップルでの相談もお受けします。

日時

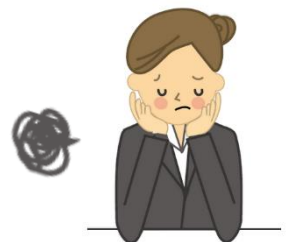
毎月第1木曜日 10時～14時
第3土曜日 12時～16時
（変更になる事があります）

場所

市民交流センター（地福寺町4-36）和室

申込

平日 65-6556（専用ダイヤル）
土日祝 65-3366（市民交流センター）



要予約/秘密厳守/
託児あり/無料